

## 令和5年度 支部懇談会

令和5年12月3日（日）に鹿児島市内の鹿児島県社会福祉センター会議室において、コロナ禍以降初めてとなる支部の集まりを開催しました。

会員4名とその配偶者2名、当会相談役を引き受けていただいている「たちばないいやまクリニック」の橋 裕紀院長先生にもご出席いただきました。

### ○懇談会次第（10時～13時）

- ・岩崎 宣夫支部長あいさつ
- ・馬渡 哲男副支部長体験発表
- ・たちばないいやまクリニック 橋 裕紀院長先生講話及び質疑応答
- ・昼食・歓談
- ・馬渡 哲男副支部長閉会あいさつ

### ○懇談会概要

始めに岩崎支部長より、「コロナ禍の影響で4年振りの開催となったこと。会員各位も集まりに出掛けるということに極力避ける傾向があり、会を開催すること自体なかなか難しいところであるが、コロナやインフルエンザが収まってくれば、徐々に復活してくるのではないかと思っている」など開会に当たっての挨拶がありました。



引き続き馬渡副支部長の体験発表がありました。

馬渡さんは鹿児島市内の百貨店に45年勤務され、また病気も百貨店並みに色々と経験されたこと、完全房室ブロックでペースメーカーを装着しこれまで6回交換したが、この間も心房細動の症状が4箇所出てカテーテルアブレーション



で治療したこと、腰の手術を2回したこと、ペースメーカーを装着して30数年経ち、主治医からリード線交換をと言われていることなど、健康管理面から参考になるお話が多々ありました。

馬渡さん曰く、時間の関係もあり体験したことの半分程度しか話せなかったとのことですので、機会があればまた残り半分の体験談をお聴きしたいと思います。

次に橘先生の講話では、先生自ら資料を御持参いただき、お話しを聴くことができました。



#### 『資料に基づく説明』

- ・ペースメーカーのAAI、VVI、VDD、DDDモードのそれぞれの違いについて
- ・ICD（植え込み型除細動器）やCRT（心臓再同期療法）の植え込み術例について
- ・リードレスペースメーカーの特徴や長所・短所について

また、会員から事前に提出のあった以下の質問や相談についてもお答えいただきました。

- ・知り合いからペースメーカーを永久挿入したと聞いた。入れ換えなくてもよいペースメーカーがあるのか。
- ・CRT-D（除細動機能付両心室PM）は、合う人と合わない人がいるのか。
- ・脈拍の上限値と下限値が設定されているが、自己脈がその範囲内にあるとき、ペースメーカーは作動してないとみてよいのか。
- ・リードレスペースメーカーは、3個までで電池が12年位と聞いており、電池

が何年持つのか気になる。

- ・遠隔モニタリングで毎日1回データを送っているが、医師やメーカーは本当に毎日確認しているのか。

このほか、当日出席者からあった以下の質問や相談についてもお答えいただきました。

- ・リード断線やリード交換について
- ・リード有りペースメーカーの装着後にリードレスペースメーカーを入れることについて
- ・冠れん縮狭心症と房室ブロックとの関連性について
- ・かかりつけ医の変更について
- ・脈拍が早くなる症状と原因について

橘先生には時間一杯、親切丁寧にお話いただきました。ペースメーカーを体の一部として日々生活されている会員にとって、非常に参考となる内容でした。橘先生には、今後とも会員へのご助言等お願いしました。

その後の昼食・歓談では、和やかな雰囲気の中で、出席者どうし打ち解けた話して時間が過ぎ、最後は馬渡副支部長が会を締めました。

久しぶりの懇談会は人数的には少ない参集とはなりましたが、体験発表や講話、質問・相談等で、少人数ならではの出席者全員活発に発言され、充実した懇談会となりました。



(鹿児島県支部会員 竹内寄稿)